ひろげよう
つなげよう
子ども会の輪

鳥取 子ども会

発行
鳥取県子ども会育成
連絡協議会　事務局

〒680－0846
鳥取市扇町21番地
県民ふれあい会館内
TEL/FAX 0857－21－2287

メダカ採り！
米子水鳥公園　メダカ池にて
米子市子ども会リーダー育成研修
5月30日（4年生～6年生）

望見

地域での自然体験を大切に

米子水鳥公園 館長　神谷　要

子どもたちの自然体験の不足が言われるようになって久しいなか、米子水鳥公園（以下、水鳥公園）には、今日も多くの子どもたちが、野鳥の観察だけでなく、メダカ採りやドングリ拾いなどにやってきています。

以前は、子どもたちが自由に来て、メダカを採ったり森で遊んだりしていたのですが、今は、幼稚園や学校や子ども会単位で連れられてやってくることが多くなっています。そんな子どもたちに「メダカ採りをしたことがある？」と尋ねても、ほんの一部の子どもしか手を挙げません。身近な自然体験すらも、与えられないとできない子どもが多いことは、とても残念です。

しかし、そんな子どもたちが水鳥公園にやってくると、その様子は大きく変化します。先ほどまで一度もメダカに触ったことがない子どもが、男の子も女の子も関係なく夢中で網を振り始めるのです。これは特別なことではなく、今も昔も変わらない、子どもが持っている本能的なものなのかもしれません。

水鳥公園では、このような自然体験を通じて、子どもたちに自然環境の大切さやその仕組みについて伝えています。すると、実際に自然を体験した子どもたちは、未体験な子と比べて自然の仕組みに対する理解や関心の強さがまったく違うことがわかります。私たちが難しい生態系の説明をしても、目を輝かせて聞いてくれます。また、子どもの様子を見ていると、捕まえた生き物を大切にしようとお互いに注意したり、うまく捕まえられない友達にアドバイスしたりするようになっていることに気づきます。

このように自然体験は、子どもたちの考える力や洞察力だけでなく、人間としての生きる力を高めてくれるようです。

山陰地方には、身近に豊かな自然がありますが、子どもたちにその自然を体験させているでしょうか？ぜひ、今週末にもそんな機会を作ってみてはいかがでしょうか？

第43回 中国・四国地区ジュニア・リーダー大会

～ 語り 考え そして未来へ ～

平成27年8月21～23日　IN 大山青年の家

中四国から約130名のジュニア・リーダーが集まり、自分達の経験値を高め、これからの活動を充実させることだけでなく、人間力を培うことも目指し、各種活動を行った。

毎年中四国地区各県市がもちまわりで、ジュニア・リーダーの育成のために、大会を開催している。

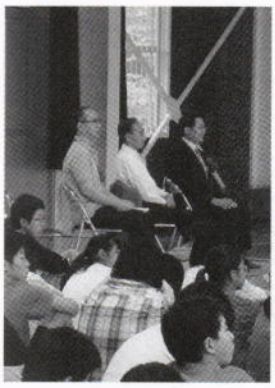
平井県知事からも激励のことば！

〔第一日目〕

開会式前の天候は雨。土砂降りの中、参加者が青年の家に集まってくる。この三日間を表すかのような雨を不吉に感じたのは、私だけであろうか。そんな中、開会式は、平井鳥取県知事にも参加していただき、盛大に行われた。

開会式前に少し時間があったので、活動班ごとに集まって、グループ活動を行う。すぐにチーム力を高めることができるグループもあれば、少し友だちとの距離をおいて、お互いの様子をうかがうグループもある。

開会式の後に、大会の趣旨説明を鳥取県シニア・リーダーズクラブの妹尾さんが行う。活動内容や、この三日間で培って欲しい力を参加者に伝える。その後に班活動スタートである。すでにチームでの意思疎通を終えているグループは、自分達の目標設定を速やかに行っている。



時同じくして、各県引率者に向けた育成者研修を行う。我々がどのようにして、ジュニア・リーダーの主体性を育てるか、判断力や思考力を高めるのか。

手も口も出さず…『見守る』のです

基本は『見守り』である。中高生年代の子ども達だからこそ、近づきすぎず、遠ざかりすぎない距離感は大切であろう。とかく、もっと身につけて欲しいことがあればあるほど声をかけたくなりがちだが、そこを我慢して、子ども達を管理せずにのばしてやりたいものである。

一方、ジュニア・リーダーたちは、目標を設定。各グループの目標を達成するために、『自分』がどう振る舞うかをイメージできていることも大切になってくる。設定された目標をみてみると、『協力』を目指した内容が多い。中には、他のグループよりも素晴らしいグループになるのだ、というイメージを前面に出したものもある。最終日が楽しみだ。

今日の作戦が明日を左右する！

その後、翌日に行われる【大山広域ポイントラリー】【マルチコンテストツアー】の説明会が行われた。今回の大会の中心的活動である。大山寺、桝水高原周辺に置かれたチェックポイントを巡りながら、主催者が設定した【マルチコンテスト】にも出展することを目指す、まさに、自分達の『チーム力』を高め、確かめ合う活動である。移動手段には、徒歩、〝大山るーぷバス〟、主催者が用意した特設マイクロバスが活用できる。この説明をどう理解するかで、翌日の活動が充実するかどうか左右される。

夕食前に行われた『夕べのつどい』では、各県の活動発表も行った。発表はその後、つどいごとにも行った。ジュニア・リーダーの立場や取り組み方は各県様々である。他県の様子や、取り組みを自分達の活動に取り入れることは、中四国各県の活動の底上げにもつながる。

夕食後は、翌日の活動の作戦タイムとなる。すでに戦いは始まっている。この企画にどのように立ち向かっていくか。当然企画は一つの手段である。要は、この手段を活用できるかどうか。ここが、今大会の目玉である。

さて、翌日への見通しや、自分の役割は、みんなが共通認識できたのであろうか…。

作戦どおりにいかない…さて？　どうする！

〔第二日目〕

朝食後、すぐに【ポイントラリー】スタート。開始直後、事件は起こる。自分達が予定していたバスに、定員の関係で乗車できない。どうするかを考えることで力量が試される。その後も、次々と、予定通りにいかない現実を突きつけられるグループが続出する。しかし、本部に助けを求めるグループはない。立派である。

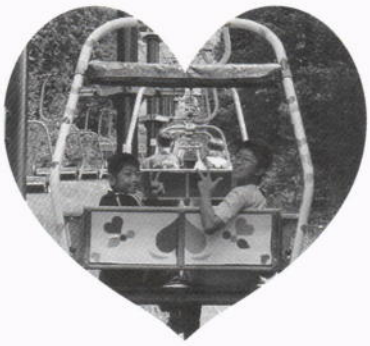
安堵していたのもつかの間。バスに荷物だけを乗せ出発させてしまったグループがあることが分かる。そのグループに、本部から連絡を取ってみる。しか

し、緊急連絡用に渡した携帯電話につながらない。果たしてすべてのグループが、携帯電話の電源を入れているのだろうか。不安に思い本部から電話をしてみると、つながらなかったグループがあった。まあ、本部からの緊急連絡が来ることは想定されなかったかもしれないが「渡される便利グッズはすべて活用するだろう」という主催者側の思い込みに反省。『携帯電話の電源を入れること』を安全確保のためにも伝えた方が良かったなあ。

難所の元谷ポイントでは！

元谷のスタッフ育成者は、朝九時から午後三時までの間どうしておられたのか。このチェックポイントには、当初二グループが立ち寄る予定だった。しかし、結果的には、訪れたグループはなかったとのこと。参加者からも、報告会で「元谷を甘く見ていました」とのコメントあり。きっと、元谷まで行けば、雄大な大山が望めたはず。できれば、その雄大な景色を見て欲しかったなあ。担当育成者の皆さん、お疲れ様。

ポイントラリー終了時刻が迫る。大きなトラブルや事故はなく、午後四時からの報告会には、全グループがそろう。流石である。どのグループも充実の一日だったようである。各グループのリーダーの思いもよく分かった。「グループのみんなが無事に、一人もかけることなく青年の家に帰る、その一心で頑張った」と話すリーダーもいた。



笑いあり涙ありのポイントラリーはこうして終わった。

燃え上がれ、ジュニア・リーダー

夕食後は、キャンプファイヤーである。シニア・リーダーの本田さんがエールマスターを務め進行していく。ジュニア・リーダーの全国大会等での研修実績もあり、今回参加した皆さんにも伝えたい技の一つである。次々とシニア・リーダーを中心に、イニシアチブを取り盛り上げていく。楽しい時間は、あっという間に終わる。

キャンプファイヤー後、大変だったのは、【マルチコンテスト】である。エントリーをする方も、少ない時間の中、自分達の目指す賞を取るために頑張った。そして、審査する方も、夜を徹しての審査と表彰準備があった。参加者の頑張る姿に応えないといけない。

コンテストの結果は？

〔第三日目〕

三日間の振り返りを行う。また、この日は【大山広域ポイントラリー】【マルチコンテストツアー】の結果発表もある。

振り返りは、初日に定めた自分達の三日後の姿を考える時間となる。当初決めた目標が達成できたのか。なぜ達成できたと言えるのか。感覚的ではなく、具体的に振り返りできることが成長へとつながる。果たして、目標設定はどうだったのだろうか。どのグループも充実した活動の成果を、振り返りシートに書き込んでいく。

次々と参加者の成果が紹介される。自分たちが主体的に決めた活動である。【ポイントラリー】にかけたグループ、また、【マルチコンテスト】にかけたグループ。いずれかの活動で賞を取りたいと頑張ったグループがほとんどである。みんながよく頑張った。しかし、表彰されるのは選ばれたグループである。そこに価値がある。競争心、向上心は競い合うことで生まれる。結果はどうであれ、自分たちの頑張りに誇りを持って欲しい。

そして、大会は終了した。

全国子ども会連合会50周年！！

何を得てどう生かすか？

この大会に参加した成果は、各地域での子ども会活動に反映されないといけない。きっと、今後の活動に生きる大会になったと自負している。参加者の振り返りをしている様子を見て、大会開会式前の土砂降りによる不吉な予感はなきものになった。

今後のジュニア・リーダーの各地域での活躍を祈念すると共に、大会を支えていただいた、全子連、各県子連、市町村子連の皆さんに感謝したい。

県子連副会長　安部　悟

ジュニア・リーダーとは？

地域の子ども会活動を援助・指導する中高生のボランティア、また、そのグループ。

子ども会活動活性化の鍵として大いに期待されている。

活動紹介

山根子ども会〈倉吉市〉「長生会とのちまき作り交流会」

山根子ども会は、毎年六月初めに長生会の皆さんにちまき作りを教わりながら交流を深めています。今年で四回目を迎えました。ちまき作りは、子ども達の健やかな成長を願う大切な地域の伝統行事です。

昔はどの家庭でも作っていましたが、だんだんと忘れられつつあるのが残念です。長生会の皆さんは、地域の未来を背負って立つ子ども達の健やかな成長を願っておられます。この行事を通じて、これからも若い世代にしっかりと継承していってほしいと、毎年、企画・準備をしてくださっています。

子ども達は、長生会の皆さんと一緒に笹の葉を洗い、団子に串を刺し、包み方も丁寧に教わります。幼児から六年生まで、見よう見まねで一生懸命。勿論、なかなか上手に包めなかったり、紐をきつく結べなかったりしますが、そこは大人が直して仕上げます。こうして毎年子ども達は作り方を少しずつ覚えていき、長生会の方も子ども達から元気をもらっていると言ってくださっています。六年生は最後となり、とても良い思い出になったようです。

そして、毎年ちまきを一緒に食べ、お互いに自己紹介をしていますが、今後は子ども達の将来の夢を発表させたいです。長生会の方も他に何か出来たら…と考えておられるようです。

これからも「参加して楽しかった。また来年も！」となるような会にしていければ、と思っています。

子ども会ワンポイント　その①
子ども会議のすすめ！

「何をしよう？」

年間行事を決めるのに「例年どおりでいいか…」と大人は考えがちです。でも、その一年は子どもにとっては一度きりしかない学年ですよね？貴重な体験をするチャンスを奪っていませんか？

子ども会活動で大切な事は色々あります。失敗してもいいから、自分たちで「子どもの手による子ども会」活動をすることがその一つです。

子ども会で年間の活動をしていると、育成者の方を中心に活動を立案・計画・実施・反省していることが多くあります。そこに「子ども会議」を入れてはいかがでしょうか。「子ども会議」とは、子ども達が活動をするための「子ども」の話し合いの場です。主体的に考え、運営、反省する。成功、失敗、そして達成感を味わうことで子ども達は「しなやかな生きる力」を身につけていきます。

「子ども会議」のためには、こうしたらもっとよくなるというようなアドバイスや具体的な活動を一緒にしてくれる指導者の確保が大切になります。

育成者の言うことは中々聞いてくれない子ども達も、ジュニア・リーダー（中高生指導者）や、シニア・リーダー（成人指導者）の言うことは案外聞いてくれたりします。

年齢の近いリーダーの声かけによって、子ども達が興味や親近感を持ちやすいからです。

自分の地区にジュニア・リーダーがいない場合には、アウトリーダーといって、ジュニア・リーダーがいる市町村子連へ派遣依頼をすることも一つの手法です。自分達の単位・市町村子連でもジュニアリーダーの育成を目指して活動をすることをおすすめします。

「子ども会議」そして、指導者の確保や導入を目指して活動することが、継続的かつ活発な子ども会を維持するためのワンポイントとなると考えられます。

●県子連からのお知らせ●

子ども会安全共済会の共済金請求忘れはありませんか？

ケガだけでなく、他人の財物などに対する損害も補償されています。

詳しくは、お住まいの市町村子ども会へお問い合せください。

編集後記

子ども達のテレビ離れを聞く。テレビが共通の話題を提供してくれていた「テレビっ子」世代としては不思議だ。テレビを見なければ話についていけなかった。

では、今の子ども達は何に興味を持ち、何を共通の話題として友だち関係を築くのか？

ネット？ゲーム？スマホ…。皆が同じものを持てるわけでない。親の経済力、考えに大きく左右されるものが多い。

違っていて当たり前だけど、違いを認めてコミュニケートする。「違うからダメ」でない「しなやかな関係」が築けるかが問題である。

子ども達は、いろいろな体験をすることで、自分にはない「人の良いところ」を発見する目を養う。

「共通の何かがなくても」いろいろな体験を重ねることが良いのかもしれない。

（N美）